

インターナショナル ビーズビエンナーレ ひろしま 2017 公募展 審査員からのコメント

広瀬光治 / ニットデザイナー

「インターナショナルビーズビエンナーレひろしま」にふさわしく海外からの作品の応募もあり、法法、デザイン共にバラエティにとんだアートが集まりました。小さなビーズから生まれる作品は人の手先の可能性を感じさせてくれました。特別賞には野ぶどうをテーマにしたバックを選ばせていただきました。異素材との組み合わせが心に残りました。ガラスの里、ビーズの故郷でのビーエンナーレがさらに充実していくことを願います。

水野久美子 / メイキングプロデューサー

今回は海外からの応募もあり、全体的にレベルアップしていたことをうれしく思います。大賞の「宝物の番人」は発想・表現力・製作技術どれをとっても素晴らしいものです。また、私にとって印象的だったのは、19世紀のイギリスのデザイナー、ウィリアム・モリスのオマージュ作品「いちご泥棒」です。モリスの中でも一番人気のあるデザインで、一目見てモリスだと気づきました。色彩とバランスの良さに加え、ソウタシエの技術も素晴らしいので特別賞を贈らせていただきました。

周藤紀美恵 / ビーズデザイナー

独創的でテクニックの組み合わせや思いもつかない配色。ワクワクできる将来が楽しみな作品ばかりでした。その多くの中から、ストーリーを強く感じられ、頭の中から離れなかった作品が《祈り<Ancient Japan>=古代日本=》でした。古墳という作品には考えられない意外性と、これをテーマにした作者の故人への愛や、先人のやってきたことを大切にしつつ、平和な未来を作っていこうという思いが強く感じられました。

国境など関係なく、作ることを続け、テクニックを競い合い、個性を生かし、今のビーズの世界を文化として、歴史に残していきたいと願っています。

君島龍輝 / 版画家

今回の出品作品には目を見張るばかりだった。私は入選からの審査だったが、予想を遥かに超えた作品群に圧倒された。それは、技術面と芸術面が一体となり「生命」そのものが感じられたからだ。鉱物からガラスへ、そしてビーズとなり、作品として生命の誕生を迎える。なんと素晴らしい事か、ビーズビエンナーレの審査会場は至福のひと時であった。また海外からの応募も沢山あり、感性の違いに感銘した。入選者の皆様、おめでとう!そしてありがとう!

山仲 巖 / トーホー株式会社 代表取締役

今回で第3回目になる、インターナショナルビーズビエンナーレ広島。今回は、感性豊かな作品をたくさんご出品いただきました。

ビーズで作られた色とりどりの、繊細でこまやかな作品を見ていると、ビーズの世界の奥深さを感じざるを得ませんでした。太古の昔から、人間と共に進化してきたビーズが、現代のアーティストによってさらに進化した世界と文化が創り出されていました。

さらに、国際的になった今回のコンテスト。世界中のアーティストによって作り出されたビーズアートの世界を是非感じていただきたいと思います。